



子育て便り

寄稿：西九州大学・西九州大学短期大学の窓から

「子の育ちは、子への承認、親への承認」

西九州大学子ども学部子ども学科 准教授 佐藤範男

三人の孫に巡り合うことができた。二人の孫は近くに住んでいるので、生まれた時から触れ合う機会は多くあった。三人目の孫は福岡市に住んでいるので、たびたび会うことはできない。夫婦とも仕事に出て、孫は、一歳の途中から家の近所の保育園に通っている。今は二歳だ。孫の体調が悪い時、たまに呼び出される。孫に少し元気が出てくると私の出番も増えてくる。近所を散歩するのが互いの楽しみの一つである。お気に入りの靴下をあつという間に持ってくる。靴下も自分で、はけるそうだが、早く外に出たいので手伝いを快く許してくれる。玄関に来ると靴をとろうとするが、とるためには土足になってしまう。孫は躊躇なく寝そべて靴を引き寄せる。外に出ると、三輪車の後ろのかごに孫は、砂場での遊び用の道具をセットする。その素早い動きに驚かされる。

この前、家に来た時には、立ち歩いて食事をしていたのに、今は椅子に座って食べている。息子たち夫婦が日頃どうかかわっているのか手に取るように理解できる。孫とのふれあいは、ほとんど代わり映えのしない毎日を過ごしている私には、驚きの連続である。どれもが「すごいね」である。振り返れば、そんな目で自分の子どもに触れていたのか心もとない気がする。子育ては、あたり前だが手間暇かかる。かかわった結果がすぐに出ることは少ないかもしれない。ただ、毎日の繰り返しの生活の中で子どもの成長を感じ、喜ぶ親の姿は子どもにきっと伝わっていると今の私は強く思う。

最近の話であるが、保育実習中におしめが取れた子どもに立ち会えたことを喜んで私に伝えてくれた学生がいた。伝えながら涙していた。苦しくて大変な実習の中で子どもたちの成長に出会える喜びを体感している学生がいる。きっと保育所や幼稚園には、子どもにとって初めての出来事がたくさん転がっていることだろう。その一つ一つをしっかりと受け止め、伝えてくれる学生たちに「すごいね」と声をかけたら、とびっきりの笑顔を返してくれた。



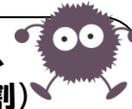
食育便り

「ノロウイルスによる食中毒に気をつけましょう！！」

西九州大学 健康栄養学科 講師 緒方智宏

ノロウイルスによる食中毒は、

- ①患者数で第1位(約5割)
- ②冬期に多い(11月~2月)
- ③大規模な食中毒にしやすい



ノロウイルスによる食中毒の症状は、

- ①食後1~2日で、おう吐や激しい下痢、腹痛等を起こす。
- ②幼児や抵抗力が落ちている人では、症状が重くなる場合があります。



国立感染症研究所は、今年の秋以降発生している集団感染のノロウイルスのほとんどがこれまで検出例が少なかった新たな遺伝子型の新型ノロウイルス(GII.17 変異株)であったと報告しています。過去最大となった2006/2007年のノロウイルスの大流行は、新型が急速に全国に広まったからだと考えられています。これらのことから今年は、流行が拡大する可能性があるため注意が必要です。しかしながら、遺伝子型が違ってても予防法は同じです。感染しないためにも、ウイルスの特徴を知って、予防法を実践しましょう。

【特徴】

- ①ノロウイルスは少ないウイルス量で感染する
- ②ノロウイルス患者のふん便や吐ぶつが食品を汚染し発生する(感染者から感染)
- ④子供や高齢者は、ノロウイルスに感染した場合に症状が重くないやすい
- ⑤症状がなくなっても、1週間程~1ヶ月程度ウイルスの排泄が続くことがある
- ⑥ノロウイルスを完全に失活化する方法は、次亜塩素酸ナトリウムや加熱である

【対応策】



ノロウイルスによる食中毒の原因は二枚貝が多いのですが、1割未満にすぎません。その原因の大半は、感染者からの二次汚染等による感染です。よって、手洗いや消毒がとても重要になります。

①しっかり手洗い！

- ・帰宅した時、トイレのあと、食事する前、調理する前にはしっかり手を洗いましょう。
- ・便や吐いたもの、二枚貝をさわったら、石けんで手を洗いましょう



②しっかり加熱！

- ・二枚貝を食べるときは、中心部を85~90℃で90秒間以上の加熱をしましょう。



③しっかり消毒！

調理器具は、洗剤などで十分に洗浄し、塩素濃度200ppmの次亜塩素酸ナトリウムもしくは熱湯で消毒する。(※エタノールや逆流石鹸はあまり効果がありません)

